

公益社団法人 千葉県鍼灸マッサージ師会

会報

平成 28 年 1 月号

新年あけまして
おめでとうございます！



本年も
地域・県民のために貢献を！

- 目次 -

- P1** 巻頭言
- P2** 活動報告(福蔵めぐり 女性鍼灸セミナー)
- P3-4** 県民公開講座・鍼灸祭り
- P5** 関東ブロック協議会
- P6** 地域健康づくり指導者研修会 in 千葉
- P7-8** 平成 27 年度 第 1 回学術研修会
- P9-12** 東洋療法推進大会 in 愛知
- P13** 今後の予定
- P14** 千葉県鍼灸マッサージ協同組合よりお知らせ

巻頭言

会長 齊藤 曠



迎春

2025年の超高齢化社会に向けての鍼灸マッサージ師の役割

会員の皆様、明けましておめでとうございます。

皆様にとりまして、健やかで希望に満ちた新年を迎えられたことと存じます。

昨年中は、当会運営に対しまして、多大なるご理解・ご協力を賜り誠にありがとうございました。

さて、昨年来、国では、2025年問題と位置づけ、人口減少と超高齢化社会の到来について、いろいろな対策が発表されております。65歳以上の人口は2015年には国民の23%、2025年には30%となり、一方、アメリカでは2015年は13.1%、2025年には17%となります。

また、働く人口は、2010年の7500万人から、2025年には1000万人（約13%）の減少を見込み、そして、75歳以上の24%は要介護認定者となる。

今後、都市部で急速に高齢化が進み、75歳以上の人口は関東では、埼玉県が2010年の59万人から、2025年には117万人で一位、千葉県は2010年の56万人から2025年には108万人で二位、以後神奈川、東京と続いています。全国では、2010年の1419万人から2025年では2178万人に達する見込みです。

つまり、独居、認知症高齢者が増加します。

従って、私たち鍼灸マッサージ師の役割が「大」となります。今、私たちの出来ること、いや、やらなくてはならないこと。

- 1、高齢者が自分の力で生活移動ができるよう、運動訓練指導を実施すると同時に、運動しやすいような環境づくりの提供
- 2、認知症の治療・予防

将来、介護職員は37,700人不足します。この現状を打開し、その一端を担うのが、私達鍼灸マッサージ師の役割です。

県民の皆様が明るく健康で暮らせるよう、また、介護の必要な方に対し、地域包括ケアに参入し、多職種との連携を図っていかなくてはなりません。

今後とも、会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

第24回福蔵めぐりチャリティーマッサージ



10月4日、晴れわたった絶好のハイキング日和の中、福蔵めぐりが開催されました。当会でも、恒例のチャリティーマッサージのブースを出展しました。

参加人数20名、県の方から、斉藤、矢島、川端、高谷、日向、宮永、桜井の各先生、日本マッサージ師会の協力で、田村、山本の各先生、学生さんから、加崎、牧野、丸山（2名）の先生方、船橋の支部から室田、藤林、木村、米良、阿比留、椎名の6名、一般協力者の伊藤先生でした。船橋駅のバスロータリ上で行ったため、一般の受療者も多く、会やマッサージの啓蒙活動としても、有意義だったのでは・・・と思います。

御協力頂きました先生方、ありがとうございました。収益金の一部、13500円を茨城の水害に寄付させていただきました。来年は、皆様の参加を、お待ちしております。

椎名喜美代

第2回女性鍼灸セミナー

昨年につき、第二回目の女性鍼灸セミナーが6月28日、当会事務所にて開催されました。

今回は、銀座エトレ院長、原 珠枝先生による『健康美人追求治療』でした。

鍼灸で美人に！といえば、美顔鍼が最近の流行のようです。ところが、原先生の治療は、健康を基本に美しくなる治療法でした。美顔だけにこだわり、顔に集中するのではなく、東洋医学を基調とし、全体から美人をつくるといったものだと感じました。

足底のバランス取りを基盤として、頭蓋骨、お尻、バスト、骨盤を調整した全身エステであること。実技の時間には、初めて顔に刺鍼という方もおりましたが、治療効果には、みんながビックリしました。バスト、ヒップ、表情筋がすべてUP！（私は翌日に頭髪がサラサラになっていて驚きました。）

大変に盛り上がり、アッという間に終了の時間、片側のみの施術で時間が来てしまったのは、少々残念でした。

しかしながら、ここまで治療できるようになるには、長年の研究や努力、経費も費やしての技術です。

実は、原先生は、本邦初公開として当会女性セミナー限定で、指導していただきました。御好意に大変感謝しております。

また、今回は17名の参加者で、二度目の参加という方、また、学生や会員外など様々ですが、女性だけの実技は本年も大好評でした。

原先生、そして参加者の皆様、ありがとうございました。

光田 幸子

～～県民公開講座・鍼灸祭り～～

8/23（日）10：30 から県民公開講座・鍼灸マッサージ祭りが、千葉市民会館小ホールにて、盛大に行われました。

内容は、午前中は10：30 より、12：30 ごろまで、当会の活動を県民へ理解を深めてもらうために鍼・マッサージの体験ブースを作り、午前中は40名ほど、午後は、10名ほど、合計約50名に、10分間の鍼・マッサージ体験をしていただきました。

また、健康関連の、日本メディックスや伊藤超短波、明健社やウェルシアさんなど来ていただき、県民への健康相談などしていただきました。

午後になると、まずは抽選会が行われ、一等は現地にいらっしゃらなかった方でしたが、二等の一万円は会場の方が、ご当選となり、盛り上がりを見せました。

その後、続々と人が集まり、春風亭一左さんと三遊亭美るくさんの落語が始まりました。二部構成で、強情灸やたいこ腹などの鍼灸に関係のある演目を、とても楽しく話していただけて、会場が笑いに包まれ、素晴らしい会になりました。

午後の鍼・マッサージ体験も、あっという間に予約が埋まり、最後は嘶家さんをマッサージしたり、鍼を体験していただいたりと盛りだくさんの内容になりました。



最後はやはり、打ち上げ！！ということで嘶家さんを交えて、当会行きつけの伝助という串揚げ屋にいきました。

なかなか、嘶家さんと酒を酌み交わす・・・ということはないのでとてもいろいろな裏話など聞けて、打ち上げに参加された方は得したのではないかと思います。

嘶家さんも、我々業界とは初のコラボだったそうで、ちょちょっと仕事をして、鍼・マッサージをしてもらい、謝礼までいただけるならいつでもお声かけてください！！と上機嫌で、お帰りになりました。

すべてが滞りなく終了できたのも、各理事が、忙しい時間をやり繰りして準備をしていただいたからだと思います。

各理事の皆様、またボランティアに参加して下さった施術者の皆様、本当にありがとうございました。

そして、会場に来て下さった皆様にも感謝しなくてははいけません、ありがとうございました。



第68回関東甲越ブロック協議会 in 東京

9月13・14日の2日間にわたって、第68回関東甲越ブロック協議会が東京で行われました。

都民公開講座として、日本伝統鍼灸学会副会長兼学術部長の戸ヶ崎正男先生が「暮らしに生かそう！東洋医学」と題して、講演されました。

現代医学と東洋医学の違いや、「病気とは、治るとは、治療とは」について、貴重なお考えを聞かせていただきました。特に印象的であったのは、薬のことについて。薬の副作用について、副作用が出た場合、アメリカでは薬を減らすのに、日本では逆に増やすということ！いろいろな裏事情も絡んでのお話をしていただき、とても参考になりました。

協議会講演①として、「社会保障から考える鍼灸マッサージ師の現状とこれから」と題して、埼玉県師会の長峰先生が、我々鍼灸マッサージ師を取り巻く社会の現状と対策をわかりやすくご説明くださいました。

また協議会講演②として、「訪問マッサージ師認定制度について」同じく、埼玉県師会の尾野先生が、認定制度について、実に魅力的に語ってくださいました。

実は、この機会に認定制度に申込みをしまして、現在、受講中です。座学は、京都大学の教授など、実に豪華な教師陣が集まっていて、とても勉強になりました。皆さんも機会があれば、是非、受講をお勧めします。

2日目は、全体協議会が行われました。

神奈川県師会が提出した「地域包括ケアシステム構築に向けて、鍼灸マッサージ師活躍の場を、提案していこう」という議案に対して、各県師会の現状や取り組んでいることが発表されました。特に取り組みが進んでいる、神奈川、埼玉、千葉の事例を参考に、今後、積極的に各市町村に働きかけを行っていくことが大切だとの認識が共有されました。

西村亮輔



地域健康づくり指導者研修会 in 千葉

千葉県鍼灸マッサージ師会が主催となつて行う「地域健康づくり指導者研修会」も2年目となりました。今年度は船橋市鍼灸マッサージ師会と合同で行い、室田智先生を始め、船橋市鍼灸マッサージ師会の先生方には大変お世話になりました。この場をお借りして御礼を申し上げます。

さて、開催日は11月22日、場所は船橋市勤労市民センターにて、開催させていただきました。

参加人数は会員にとどまらず、会員外からも、日本あんまマッサージ指圧師会より田村光弘先生も参加され、合わせて20名ほどが参加していただき、昨年よりも多い参加者を集めることが出来ました。

講師には、船橋市の藤林克仁先生(全日本鍼灸マッサージ師会 健康づくり委員)を迎え、午前中に『地域包括ケアシステムについて』『介護予防の実情とこれからの方向性について』の講義をしていただきました。

午後からは、『体力測定』『健康づくり運動の実際(ゼンシン体操・チェアエクササイズ)運動指導の実際(グループワーク)』『各地域における介護予防の活動についてのグループワーク』を行いました。

地域の活動報告として、市川浦安鍼灸マッサージ師会の梶貴雄先生より、「ケアカフェいちかわ」の活動、市川市の「市民祭り」での活動などを報告していただきました。かなり充実した内容を参加者に提供出来たのではないかと思います。

今回で千葉県鍼灸マッサージ師会主催で2回目の開催となり、これまでに東京での研修にも参加されている先生では、この度、初任者研修を修了される方もおります。また、1月末の東京での研修に参加を予定され、初任者研修を修了されようとする先生もおられます。

このように研修会を経験され、ご自分のスキルを挙げていただけると大変ありがたく思うと共に、地域に持ち帰り活躍することを楽しみにしております。

少子高齢化が急激に進行する中、これまでの介護への考え方を改め、予防というものを真剣に考えなければなりません。そのためにも、予防医学を得意とする私達鍼灸マッサージ師が携わっていけたら素敵なことではないかと思います。

これまで参加されたことのない会員の方、興味のない会員の方、一度参加されてみて下さい。自分たちがこれからの医療・介護に対してどのようなことを考えなければならないのか、ヒントを得るためのアイテムになるはずですよ。

最後に、ご協力いただいた先生方、ご参加いただいた先生方、誠にありがとうございました。

濱田将光



☆☆☆学術研修会便り☆☆☆

7月27日、当会事務所にて、今年度第1回目の学術研修会を開催いたしました。学術部のモットーとしては「科学とコミュニケーションする、そして臨床に実践して手ごたえを感じる」ことです。

そして鍼灸マッサージ師として「スペシャリスト」と「ジェネラリスト」の達人を目指し地域医療に貢献できる鍼灸マッサージの資質向上の急成長を目指しています。

「スペシャリスト」とは「その道の達人」ですが、そのためには「ジェネラリスト」としての総合的能力の達人になることも目指さなければ、「真の達人の道」を進めないのではないかと感じています。

そして鍼灸マッサージ師は、この取り組みが「急ぎを要する重要なこと」として取り組まなければ、時代は変わらないと感じています。

数年前からは是非お呼びしたい先生であった二人の教授を迎えることができ、参加の先生には時代が動く可能性を感じていただけたのではないかと思います。

午前中は亀田医療大学特任教授の河野俊彦先生の解剖学でした。河野先生は千葉大学、了徳寺大学、国際武道大学で、研究と教育に携わり、生理学や病理学の学会の名誉会員でもあり、臨床に役立つヒントを次から次へとお話しいただけるので本当に楽しい授業です。

そのため、鍼灸マッサージの教員養成科ではかなりの時間数で講師をしており、私たち業団でもシリーズとして引っ張りだこの先生です。

私も10数回の講義を聞いていますが、毎回新しい役立つ解剖学なので、当会でもこの次が楽しみです。河野先生の新しい著書である「姿勢を診て手当をする」は、講義後には興味を持たれた先生により完売となりました。

人間は直立で立つ進化の過程で肝臓を吊り下げる肝鎌状間膜の成り立ち、肝臓の重さは人間の健康を保つために必要、など、なるほどの連続でした。



午後からは武蔵野大学特任教授の遠藤恵美子先生、助教授の三次真理先生のお二人に「マーガレット・ニューマン理論に導かれた看護実践」をお話いただきました。

遠藤先生をお迎えした経緯は、私が現在放送大学で3つ目の学士を目指し哲学を学んでいます、教養としてではなく臨床に役立つ哲学の構築のために学習しています。

図書館で看護論のビデオで「現象学的看護論」という題名に興味を持ち、見たところ非常に興味ある内容でした、ビクトール・フランクルの「意味への意思」生きる意味に向かう意思についての「ロゴセラピー」の考え方は病苦に直面する人への希望となることを感じ始めていたので、それと多くの共通点を持つ「現象学的看護論」は、私に「急ぎを要し重要なこと」として感じられました。

なぜならば、それに勇気をもらう、自ずから勇気を得る力に気づくことの事例としてあると感じたからです。

現象学的看護論の研究者としてマーサ・ロジャーズがおり、それを学び、益々この理論と実践について本を読んでいくと、マーガレット・ニューマンという看護理論家・研究者を知ることとなり、日本での研究者に武蔵野大学の遠藤恵美子先生がおられることを知り、今回の研修会でお話いただいたことは、今後の鍼灸マッサージ師論として、とても必要な事柄であると思います。

「拡張する意識」とは短い文章でお伝えするのは私の文章能力に限りがあるので、今後、実体験で報告していきたいと思います。

遠藤恵美子先生と三次真理先生は「マーガレット・ニューマンに導かれたがん看護実践：ナースの見方が変わり、ケアが変わり、患者・家族に違いが生まれる」という本を著していますが、今後私は遠藤先生と三次先生に導かれた患者応援実践として、鍼灸マッサージ師の見方が変わり、ケアが変わり、患者・家族に違いが生まれるようになっていくと決心いたしました。

学術部長 元吉正幸



□■□東洋療法推進大会 in 愛知□■□

10月25・26日に愛知県名古屋市にて、第14回東洋療法推進大会が行われた。愛知は日本の歴史の中でも伝統ある文化を持つだけあり大会テーマの「東洋療法の伝統と可能性を求めて」にふさわしい内容であった。

招待講演の野崎利晃先生の「外治と内治による妊孕性を上げる」は、副題の鍼灸治療と食改善による後天の精の向上の内容が詳しく説明された。

野崎先生は薬剤師でもあるだけに、食養については伝統的東洋医学に根拠のある現代医学的な視点も含めた、統合的な、そして来場者にもわかりやすい話し方で、話し方そのものがとても参考になり、人柄が現れている風貌や、治療家として品位ある存在感は、不妊に悩む夫婦の安心感につながると感じた。

今回は黄体機能不全にみられる高温持続性が弱く、排卵時の体温変化が弱い場合には督脈、任脈、衝脈の各治療穴に温灸療法を行い、体温変化の恒常性が保たれるようになると妊娠した例を上げ非常に興味ある話しであった。

また基礎体温の測定は婦人体温計を用い、毎日6時間以上の睡眠後の起床時に測定するなど、客観的な説明もあり、開業の立場でも十分研究できる示唆に富む話が聞けたことはとても良かったと思う。

最近フード・ファディズム（食の流行氾濫）により利潤優先の偏ったあやしい話が多い中、豆や胡麻、海藻類、魚、シイタケ、イモ類などを丁度よく食べるなどの話はとても重要であると感じた。

また不妊治療中や妊娠中は生ものお刺身などは避けたほうが良いという理由は食中毒が怖いということで、非常に具体的でなるほどの連続の話が聞けてありがたかった。

オリンピック・パラリンピックを見据え、国民のスポーツをいかにサポートしていくかは、石川県の体育協会や他団体と県単位でスポーツをサポートする団体としての活動の報告は、これまで鍼灸マッサージ師が展開してきたスポーツ鍼灸セラピーの経験を活かし、見事な発展をしている報告で、他県も啓発される内容であった。

我々鍼灸マッサージ師は、スポーツ選手に対してジェネラルストとしては科学的理論を豊かに理解し、各専門家と対話ができ、スポーツ選手と対話し、出来栄への向上を共に喜ぶことができることが醍醐味である。

また鍼灸マッサージ師としてのスペシャリストとして、安全、科学的根拠のある説明、マスターリーな技術を提供するという真摯な姿勢が、これからの未来の姿であると思うが、今回の話は頼もしく感じた。

またそのような取り組みが市民マラソン大会などに生かせることはこれからの取り組みとして重要であると思う。

パラリンピックについては同様にサポート体制にジェネラルストとして、スペシャリストとしての活動が同様になされて行くことがこれからの課題でもあるという示唆のある話もあった。

障害の理解には現場での活動はなければならず、御膳立てをしてくれる同志の力があるということは、こころ強く感じた。スポーツ事業委員長の朝日山一男先生の見識は未来を見据えたものであるので安心して強力に協力していくことであろうと思う。

臨床発表については印象深かったものとして、最近では会社組織として鍼灸マッサージ業を経営者もあり神奈川県林秀卓先生による従業員満足度とクレド「信条」「志」「約束」を意味することを取り入れ従業員が自主的に運営する会社づくりを目指している方法の発表があった。

その結果、離職した人が戻ってきた、また会社活性化につながることで、また会社組織で1人の社会人としての働きかけができる人材育成は、社会的に正しい信条、志を持ち鍼灸マッサージ師が地域社会に根ざすことの希望につながる内容であった。

また症例発表では「自律神経失調症と考える症例への按摩マッサージ施術について」があり自律神経失調症に対し循環系、にはすべての手指、足指を末梢から中枢に向かい間欠圧迫、呼吸器系は呼吸に合わせて胸郭や上腹部、季肋部へ圧迫を施し、消化・排泄系へは按腹と耳下腺・顎下腺部の軽擦をする手技で改善舌症例の報告があった。手技としては特別なものではないが、丁寧に伝統的手技を行うことで自律神経失調症に効果をあげていることはすばらしいと感じた。またその効果についてはVAS（ビジュアル・アナログ・スケール）を用い客観的評価をしているので説得力のある発表であり、今後の啓発につながると感じた。

元吉正幸

□ ベビーマッサージの安全指針

講師は(公社)大阪府鍼灸マッサージ師会理事の古田高征先生で、昨年、「ベビーマッサージ」による乳児の死亡事故が発生し、施術者逮捕という報道がされた件を例に、我々鍼灸マッサージ師の安全指針についてのお話をされました。

そもそも乳幼児をはじめとする小児への手技は慎重に行うべきとされていますが、これまで法律的な指針などがなく、無資格での施術が行われてきました。

一方、医療のうち、看護領域でも「赤ちゃんマッサージ」「タッチケア」などと呼ばれ、類似したものとして「カンガルーケア」などがあり「デベロップメンタルケア」と総称されるようです。

また、看護師、助産師の指導により、母親などの家族が行っているケースもあるようです。このように様々な形で行われている実情をお聞きしました。このようなことを踏まえ、鍼灸マッサージ師による小児への施術が「より安全な施術」で行われることにより、有資格者への理解が高まり、無資格者による健康被害が無くなることを願いたいものです。

後半は、ベビーマッサージの手技についてお話をお聞きしました。治療的なことばかりではなく、遊んであげるつもりで、手遊び、足遊びをするような感じで行うとよいとのことでした。

また、母子との関係づくりによいとのことで、精神的な結びつきや、身体的な変化や成長にも役立つとの話もありました。

私もベビーマッサージの指導の経験がありますが、古田先生が言うように、どこかをよくしてあげるために極端な治療を施すよりも、乳幼児は感受性が高いため、スキンシップの中での精神的な安定や身体の変化への気づきなどに役立つほうが正しい使い方だろうと思います。

濱田将光

□ 社会保障制度の行方とあん摩マッサージ指圧・はり、きゅう療養費

今回の全国大会の中で厚生労働省の官僚が二名も来ていたのがとても驚きました。なかなかそんな機会がないので、こちらにも参加してまいりました。

まずは、政治家の先生のあいさつから始まり、ちょっと物々しい雰囲気の中、講演が始まりました。自民党所属の先生より、二階先生は、高齢化社会に対応し、健康寿命を延ばすためには、鍼灸マッサージは必要です！と厚生労働省に働きかけをしていただけているようです。

今後に期待しながら、業界自体ももっとまとまって政治家に意見できるような、強固な団体ができれば業界も変わるかもしれないですね。

さて、話は本題に戻ります。吉田氏の講演は、四つに分かれており、1.再確認したいこと 2.最近起きている事 3.地域包括ケアシステム 4.医療費をめぐる論議となっております。

地域医療構想の話が出たり、鍼灸及びマッサージの月の平均加療日数や平均支給額、などしっかりと厚生労働省は把握をしており緻密なデータに驚かされました。H30年には国民健康保険法の改正があり都道府県に委託するような話もしておりました。

地域包括システムは、それぞれが目標を共有し、『ビジョン』を示し、『フラットな関係』を保証するために厚生労働省は働きます、と話しておりました。支給基準の明確化・受領委任制度の検討・施術対象の適正化・施術所の登録管理の指導や監督・・・などを療養費の中でしっかりと検討もしていかなければならない！！とも話をしておりました。

来年度、療養費の改定もあるような話もあったようでした。とても難しい話が多かったですが、勉強になることが多かった講演でした。

川端隆治

□ 地域包括ケアの新総合事業に専門職として関わるには

講師は株式会社シルバー産業新聞社の橋本寿人氏がつとめられました。

2015年に介護保険制度が改正され、『地域包括ケアシステム』の構築が揚げられ、『新総合事業』が市町村に義務化されました。

要支援1および要支援2も地域支援事業への憩いが決まり、介護サービスの一部が国から地域へ引き渡されることになりました。今回の講演は、それらに伴う制度をお聞きすることが出来ました。

まず、介護保険制度が目指す方向性として、①被保険者数・要介護認定者数の推移 ②介護費用・保険料の動向 ③都市部での急速な高齢化 ④独居・老老介護世帯の増加 ⑤認知症高齢者の増加・将来の介護職員の不足 ⑥今後の国の介護政策としての『地域包括ケアシステムの』イメージ ⑦医療のベッド数の抑制 ⑧施設入居者数の抑制についてお話をいただきました。

続いて、予防給付の見直しと総合事業として、①予防給付の見直し ②介護予防・日常生活支援総合事業の仕組み ③「訪問型サービス」「通所型サービス」「介護予防ケアマネジメント」について ④制度改正後の介護サービス利用の流れ ⑤総合事業への移行スケジュールなどの話をいただきました。

最後に、市町村の取り組みとして、新総合事業の取り組みを始めている地域の具体例のお話をいただきました。そして、実際に取り組まれている鍼灸マッサージ師として、神奈川県のエ先生、群馬県の狩野先生、埼玉県の高嶺先生の3名の先生より、先生方の取り組みをお聞かせいただきました。

『地域包括ケアシステム』については理解が難しく、全国的にはまだまだ取り組まれている先生方は少ないのかもしれませんが、これらのお話をお聞きして思ったことは、私を含め多くの先生方が取り組まれることにより、鍼灸マッサージ師は、ただ、鍼・灸・マッサージをするだけの能力ではなく、自身の限らない能力を社会に発揮できるチャンスが来たのではないのかとっております。

濱田将光

□ 治療院経営セミナー 勝ち組になれる10の考え方

講師は、古賀慶之助先生で、今回の全国大会の中で一番聞きたかった講習の内容でした。

成功している先生はどのようにしているのか？とても気になる場所でした。小さな表題を7つ設定しており、流行らない治療院の10の兆候から始まり、勝ち組になれる10の考え方まで、ユーモアを交えながら、丁寧に教えていただくことができました。

安売りはサービス放棄にあたる、おつりは必ず新券を使用している、自分への投資を怠らない、常に原価計算をし、スタッフへ周知徹底させる、過去と他人は変えられない、自分と未来は変えられる、根拠のない自信を持つことも大事、などいろいろなキーワードが出て、とても面白かったお話でした。どんな治療やサービスより、大事なのはその治療家の人柄であると話していたのは、とても共感できる内容でした。

治療室の隅々の掃除（ベッドに自分自身で寝てみて、天井の埃を取ったり、うつぶせに寝て寝たところから見える個所を徹底的に掃除する）や同業者がライバルではなく、外食産業など他業種がライバルであるなど、違った視点もあり感心させられることが多かったです。患者を恋人に見立てて、対応してみたりとユニークな話もありました。

あと一つ、患者を信者にする！と話しており、信者はつなげて書くと、儲かるという字になります！！とも話しておりました。（会場がワットとなりました！）

私も気づかされることが多く、非常に目の覚めるような内容で、いい刺激になりました。機会があれば皆さんにも話をしていければと思っております。

川端隆治

□ 医療機器の扱いについて 臨床現場からの提言（視覚障害者部会）

10月26日 9:00～10:30まで、約60名の参加で開催され進行役に仲澤進氏他3名が担当され、また、協同組合から堀理事長が加わり、医療機器メーカー2社が現状報告を行った。

視覚障害者でも取扱いやすいようにだいぶ改善されつつあり、また点字シール、

音声案内がつけられている、取扱いにくいところは担当業者にお問い合わせすれば、可能な限りシール等は貼って下さるとのことです。

現在いちばん必要性を感じているのは角度計の数値です。シールを貼ってもすぐ取れてしまうし、貼りにくく難しいとのこと。一つの方法として目盛のところに切れ目を入れることにより、触っても剥がれることはない。ただメーカーが技術的に可能かどうかコスト面も含めて検討するとの回答があった。

最後に、堀理事長から協同組合で取り扱ってほしいものがあればどしどし要望してくださいとのお話があり終了となった。

齊藤 曠

今後の予定

日程	内容	場所
1/30(土)	柏駅伝	柏の葉陸上競技場
2/21(日)	第2回学術研修会	千葉県師会事務所

※以上の予定につきましては、それぞれ書面をもって通知いたします。
 ご不明な点は事務局(tel043-301-3489)までお問合せ下さい

☆☆平成27年度第2回学術研修会のお知らせ☆☆

【日時】平成28年2月21日(日)10:00~16:00

【場所】千葉県鍼灸マッサージ師会事務所

<午前の部>

【時間】10:00~12:00

【演題】『鍼灸マッサージの科学的に考えた治療技術』

【講師】元吉正幸 当会学術部長

鍼灸治療を行うときに、当然治療であるので、何らかの効果が求められます。治療家はその治療に対して、科学的に考えた治療のプロセスがあるべきです。これからの鍼灸マッサージは、医療連携・統合医療の広がりとともに、科学とのコミュニケーションが重要な鍵となります。今回は最近私が臨床に取り入れている鍼灸実技とマッサージを通して、及ぶ限り、科学的説明を行おうと思います。特に今回は柳谷素霊の1本鍼、増永静人の指圧について科学的な考察を加えようと思います。

<午後の部>

【時間】13:00~16:00

【演題】『変動経絡検索法 VAMFIT』『天地人治療』理論と実技

【講師】木戸正雄先生 花田学園教員

戸正雄先生は、臨床経験も非常に豊富なおうえに、花田学園で長い間教育に携わり、著書も多く「変動経絡検索法 VAMFIT」「天地人治療」「脈診習得法誰でも脈診ができる」「柳谷素霊の1本鍼」などを著し、伝統医学のコツをつかんだ、技の伝え方の達人であります。今回は、主に頸部の触診により経絡変動を推定し治療に役立てる変動経絡検索法や天地人治療の理論を学び、実技も供覧していただく予定です。その他、時間的に木戸先生の脈診、柳谷素霊の1本鍼のことなどについても、明日の臨床につながる知識をお話しいたします。(文責元吉)

【費用】資料代 1,000円 弁当代 600円 飲み物(緑茶)100円

※お弁当が必要な方は参加申込み時にご注文ください。

※視覚障害者の先生で誘導ご希望の方は申込み時にご相談ください。

※参加につきましては県師会事務所に2月16日(火)までにお電話又はFAXください。

電話：043-301-3489 FAX：043-301-3499

お問い合わせ：元吉携帯 090-8052-8459

千葉県鍼灸マッサージ協同組合 お知らせ

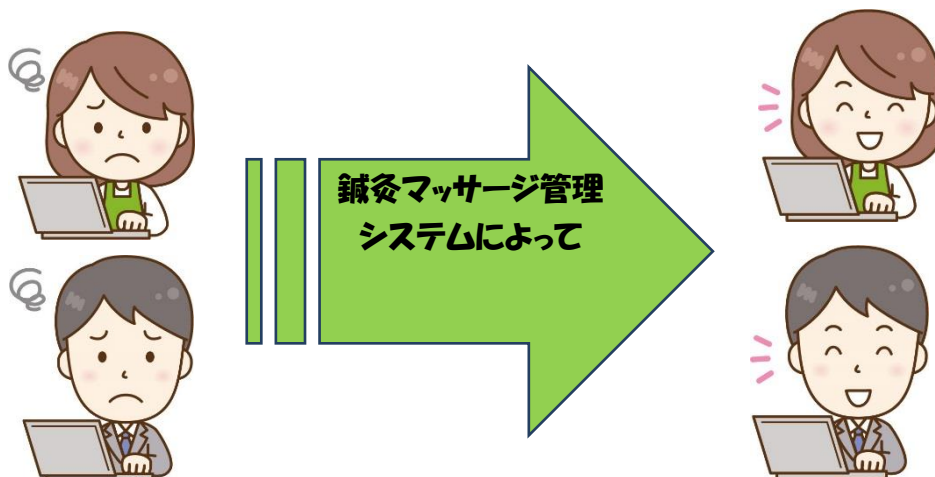
鍼灸マッサージ管理システムご案内

治療院向け業務支援、療養費支給申請書作成支援のための鍼灸マッサージ管理システムの提供を開始しました。毎月の申請書作成業務にかかる事務作業が軽減できるシステムとなっております。組合員の皆さま、是非ご活用ください。

【メリット】

- ・インストールの必要がなく、すぐに使い始められる
- ・患者様のカルテ情報と日々の施術記録から申請書を作成できる
- ・同意書の管理ができる(同意書有効期間のチェックも簡単)
- ・患者様の予約をスケジュール表で管理できる
- ・事務局に提出する書類が自動で作成できる
- ・審査チェックや数字が自動計算され、間違いがほとんど起こらない
- ・往診距離を自動で計算できる
- ・一部負担金の未入金管理が出来る
- ・申請書を送付してから決定されるまでの進捗状況が一目瞭然でわかる
- ・音声読み上げソフトに対応し、視覚障害者の方でもご利用可能
- ・スマホ、タブレットでも作業が可能
- ・使用方法など分からないことは事務局でサポートします
- ・審査手数料が5%⇒4%に減額するプランも選択可能

自由診療の施術記録、予約管理は無料でご利用いただけます。
お申込み、お問合せは県師会事務局までお気軽にご連絡ください。





発行 公益社団法人 千葉県鍼灸マッサージ師会
〒260-0021 千葉県千葉市中央区新宿 1-8-11
千葉新宿ビル 3階
Tel.043-301-3489 Fax.043-301-3499
<http://www.harikyumassage.jp>

発行責任者 齊藤 曠
編集責任者 西村亮輔